【一九四六とは】
「一九四六」とは、中国人画家王希奇（ワン・シーチー）氏が描いた縦 3m×横 20mの「旧満州」（中国東北部）からの日本人引揚げの絵です。王氏は、ある日ネットで見た「母親の骨箱を抱えた男装の少女」の写真に心を動かされて、人々が戦争に反対し、平和を大切にし、生命を尊重することを願って、日本人引揚者の姿を描き出しました。
終戦後、博多港へは海外から約 139 万人が引き揚げました。引揚げとの関係が深い福岡で「一九四六」展を開催して、世代を超えた多くの方々に引揚げを感じていただき、その歴史を語り継ぎ、平和への思いを伝えていきたいと願っています。

【引揚げとは】
第二次世界大戦終結時に海外にいた日本人が帰国することを意味する言葉です。軍人・軍属については、復員という言葉も使います。博多港へは一般邦人約９７万人、軍人・軍属約４１万人、合わせて約１３９万人が引き揚げてきました。一方、日本にいた中国人、朝鮮人は約５０万人が博多港から帰国されています。

【葫蘆島とは】
現在も中国遼寧省南西部にある港湾都市です。（島ではありません。）「満州国」南部に位置していました。「満州国」には１５５万人もの日本人が住んでいたといわれ、大多数が戦後も取り残されていましたが、終戦の翌年１９４６年５月からようやく引揚げが始まりました。葫蘆島港が日本への引揚港と決められ、人々は内戦が始まり混乱する中、葫蘆島に向けて大移動をしました。引揚船は主にアメリカ軍艦が使用され、２年間で約１０５万人が帰還を果たしました。しかし、中国人に預けられた日本の子どもたちや内戦に留用された人、ソ連へ連行された人たちなど葫蘆島まで来られなかった人も大勢いました。

【王希奇氏プロフィール】
画家。1960 年中国遼寧省錦州生まれ。魯迅美術学院油絵学部に勤める。中国美術協会会員。東洋的墨絵の要素を西洋油絵に自然に融合させた画風で評価される。特に歴史をテーマとする創作を得意とし、その独特な画風とオリジナルな視点で国内外の注目を浴び、既存の流派に属さない独立した芸術家と評される。代表作に、国家金メダル賞を獲得した《三国志・赤壁の戦い》（合作）、中国国家重大歴史題材美術創作プロジェクト入選作品≪長征≫、≪遼瀋戦役　攻克錦州≫（合作）、および≪官渡の戦≫などの大型絵画がある。油絵のほか、墨絵の≪回声≫、《高原人》、《雷に聴く》も全国美術作品展に入選。数多くの作品が中国美術館、中国国家歴史博物館、中国国家軍事博物館などに収蔵されている。
近年では、2012 年から 17 年にかけて、葫蘆島港から 105 万人の残留日本人の大送還をテーマとした大作《一九四六》（縦３m横２０m）をはじめ、関連するシリーズ作品計５０点を制作した。